

井戸端だより

第11号

発行日 1995.10.3

発行 ぐらしの学習会

9月例会報告

9月18日(月曜日) 午後1時半より
町民会館にて

参加人数 7人

夏休みボケも何とか乗り切って、などと悠長なことを言っている暇もなく、やれ運動会、それ修学旅行、と追いまくられる毎日です。7、8月と例会はお休みでしたので、9月の例会の参加人数が危ぶまれましたが、半数が久し振りに顔を会わせました。積もる近況報告やら、何やらで、アッという間の2時間でした。

……◇◇◇◇◇……

★今後の活動について

提案① 座談会をしよう・・・青年海外協力隊に参加経験のあるひとを囲んで、お話しをしよう。アジアのなかの日本、世界のなかの日本について、知りたい。などなど。
尚、具体的に人物も決まり実現に向けて交渉したところ、ちょうど10月14日に、松山国際交流センターでイベントが開かれるとの情報を得ました。座談会はその後でまた日を改めてということになりましたので、乞うご期待。

提案② 木を見に行こう・・・重信町の環境指標のひとつとして、泉の生物の他に何かないだろうか。そういえば、山ノ内で開発の魔の手から《木》を守った話を聞いたよ。それに、ビャクシンという大変な長命木があるのも有名だけど、見たこと無い。行こう！9月25日決行、の予定でしたが、予定外の台風でその日は小学校の運動会に。残念、無念、担当は下見に行ってきましたので、なおがっくり。

(P2A)

★泉の絵葉書の収益金の使い道について

議論の末、泉の清掃費用に使うのが一番ということになりました。水利組合の方も清掃に一番困っておられたし、それにシルバー人材センターに依頼できたら・・・ということで、10月9日に役場へお願いに行くことにしましたので、できるだけ多くの皆様のご参加をお願いします。午後1時、町民会館まえ集合です。ミーティングのあと役場に行きますのでよろしく。役場は、1時半。(Y)



重信町定例議会〈第156回〉



(泉に関する一般質問があると聞き付けて早速行ってきました。以下は議事録よりの抜粋及びあらましです。質問者は町内唯一人の女性議員、諸伏静江氏です。)

前回の定例議会におきまして、改良区とも協議を行い、現状保存の方法で周辺の整備を計っていきたい、環境保全の面からも自然観察教育の点からも貴重な財産であると認識しているという答弁に、この問題も大きく前進した気がいたしました。

この上は改良区と自然保護との接点を見いだす事が第一だと思います。改良区はずっとずっと昔から泉を管理していく上で、大変な御苦労があったと聞きます。自然保護と一方的に言ってもいけないので、三ヶ村泉が作られた目的と管理面を充分考慮しながら、許されるぎりぎりの工法でやっていただけないでしょうか。・・・中略

私の言う自然公園とは、生物が生息しやすい環境で保護していくということです。生物がいるということは人間も安心して住める環境ということです。先の河川審議会でも建設大臣への答申において、生物の多様な生息、成育環境の確保が基本方針として第一に上がっております。数少ない貴重な泉をみんなの共有財産としてとらえ、残してよかったなあと言えるような泉の姿を行政と共に考えていく必要があると思います。以上、三ヶ村泉についての行政の姿勢をお伺い致します。

町長 の答弁

(丁寧な答弁をいただきましたが紙面の関係で以下、問題になっているところのみを抜粋します。また、下流域600メートルは改修済みですが、残る上流域650メートルは未施工となっているそうです。また、愛大の先生方、改良区の方、関係各々方と共に踏査して下さったとのことです。)

今後も関係改良区、専門家のご意見を尊重し、先人の遺産を保護する方向で検討をしてまいりたいと考えております。

ただ、のり面がすべて私有地でございます。あらゆる樹木が生い茂っているために自然林が残されておるんですけれども、保存するか、公園化するか、どちらにせよ私有地ですから、町が買い取って公園に指定するとしても土地問題がありますが、今後とも前向きにこれを進めてまいりたい。このように考えております。

9月20日



楠先生に「木」について、お話をお聞きしました。

泉を守ってくれたのは、雑木林。川の源は、森。「水」を追いかけて、泉に川にと出かけて行くと、いつもそこには「木」がありました。「木」のそばにいと、「気」をもらうようで「気持ち」もいいし。「今度は木を見に行こうか」。誰からともなく、そういう話になりました。じゃ、大木めぐり？、名木めぐり？、それとも老木、長命木？何を見に行こうかということで、楠先生に相談に行きました。

「りっぱな木を見てまわるのも、楽しいですよ。」とも言われたけど、「大事なのは、生物がいるかどうかです。」と話してくださいました。「クヌギ、エノキ、ムクノキ、クスノキ、イチヨウ等、そこに葉を食べる虫がいて、実を食べる鳥がいて、樹の下には低い木が茂っている、そんな状態が人間にとっても、安心できる環境だと思います。」そう言われて、なるほど、納得しました。木はたんなる酸素製造器ではないんだと。いろいろな生物を育むものとして「木」に会いに行こう、そう思いました。そういえば、前回「水」の時にも「泉が貴重なのは、ただきれいだからというだけじゃなくて、水質を知らせてくれる生物がいるからですよ」と教えてくださったのも楠先生でした。ここにくるといつも、人も自然の一部なのだど気付かされます。庭のまん中に大きなホオノキが立っていて、庭全体がいつもひんやりと涼しい先生のお宅にお伺いして、いい時間をすごさせていただきました。

楠先生； 南日本自然史研究所長 松山在住

(K)

くすのき

森のめぐみ 木のめぐみ <100>



泉の絵はがき その後の反響

☆ ミニ写真展

伊予銀行・うしぶち支店にて

あれこれ

7月の始めに、銀行で声をかけられました。この方たちには、以前 絵葉書を買っていただいています。

「あの、泉の絵葉書、ここに展示していただいただけませんか？」
 思いがけない、嬉しい申し出でした。学習会の例会で相談の上、
 昨年のパネル展で使用した写真と絵葉書を、7月14日から9
 月8日まで展示させていただきました。

絵はが



トンボやチヨウウの楽園

温泉郡重信町田窪の重信川中流右岸にある三ヶ村(さんかそん)泉。清水がこんこんとわき、水面にはオランダガラシ(クレンソウ)やヤナギタデなどの水草が揺れる。落葉樹が泉を覆い、トンボやチヨウウが飛び回る。まるで印象派の絵のような風景がそこにはある。

二百年以上前、農業用水に乏しい近隣三ヶ村が、重信川の伏流水を得るために十年かけて掘削したもの。現存も農業用水として利用されている。重信川周辺にはかんがい用の泉が百三十余りあったが、原形をとどめ

るのは三、四十。そのなかでも水の透明度と自然環境の良さでこの泉にかなうものはない。泉の周りは雑木林でアベマキ、エノキ、ムク、ハゼノキ、ウルシなどが生育している。かつてはこのように雑木林が至る所にあつたが、次々伐採され、住宅や道路、工場などに姿を変えていった。三ヶ村泉周辺の雑木林は、松山平野で数少ない生き残りといえる。生物にとっても「最後の

水澄み 緑陰を残す

三ヶ村泉 (重信町)

楽園」。清流域 流側六百五十坪の工事は中にしつかすめない 断している。オオカワトンボもハゲロトンボも、今ではこの周辺でしか確認できない。水生生物を研究して問題の難しさがここにある桑田一男さん「松山平野でこれほど素晴らしい自然環境はない」と感慨深く語る。

しかし、この聖域も開発と無縁ではない。泉から県道までの水路のうち、下流側六丁は町の整備事業で兩岸がコンクリート板で補強された。が、町内外から泉の保存を求める声が強く、上

開発が悪いとは一概には言い切れず、現にこの泉も人間が開発したもの。泉周りはこれまで、人間の利用と生物の生態の関係がうまくいっていた「人間と森の共存」の理想的な環境だった。今後もこの共存関係を保つための努力を惜しまず、

多種多様な木々が、美しい泉を守ってき た三ヶ村泉

☆ 売れ行き 絶好調 丸三書店 湊町店にて



は松ヌまで
64-0284

9月の始め、追加注文の電話がありました。聞けば、預けた50部が完売したとのこと、驚くやら、嬉しいやら。早速もう50部を持参して、また感激。店の入り口から一番よく見える場所に置いてくれています。感謝、感謝。

(M)

☆ お便り 続々・・・うれしい 悲鳴!

◎ 高校生から

あれは、もしかすると『桃三原郷』というヤツ
 なのではないのだろうか。
 …今になら、まみると、どんな風に思ってしまうほど、
 ここは あまりにも『別世界』であった。
 もし、明日、泉に行くとする。あの泉は、本当に
 あの場所にあるのだろうか。夏休み、何度か
 ここへ行き、そのたびに
 『あ、よか、た。ちゃんとある。』 そう思ったものだ。
 私が 泉の入口(?)に行くとき、そこには必ず、
 『ハク』『トニホ』が2,3匹いて、「ヨウコソ」とか
 言いたげに、私を先導して中まで連れていってくれた。
 (ううな気がした)
 まさに『楽園』(他に言葉はないのだろうか。
 『オアシス』なんだろうか?)と叫ぶべき場所
 だったように思う。

By: M2

◎ N.T. さんから

大切にしたい泉の自然
 前略. 本日はお忙しい中、給ハガキを
 送るに及ばず申し訳有りませぬ。有り難ク
 ござります。6枚ほどおまいりです。今年も
 このハガキで友人等に連絡をしたいと思います。
 思ひます。代金、本日振り込みましたので、
 宜しく願ひ致します。取り急ぎお礼い
 かせに。

愛媛・重信川流域三ヶ村泉
 この給ハガキによる収益は泉の保全に役立てられます



◎ K.O.さんから



「三ヶ村泉とホタルの夕べ」（6月10日）に参加して。

わずか4時間程の「ホタルの夕べ」でしたが、私や4人の子供達（17才、10才、8才、5才）にとっては、とても豊かなひとときでした。わが家は、松山のバイパス沿いに在り、夜なお明るい所です。重信の川辺や田んぼ道はまさに真っ暗で、「闇」というもののぞくぞくするような底無しの恐さを思い出させてくれました。そんな中で、あちらこちらで、ぴかり、ぴかりと輝く光の、なんと神秘的で美しかったことでしょう。子供達は生まれて初めて見る蛍に、もう有頂天で、虫のおしりが電気のコードも電池も無しに光ることの不思議に、思考が混乱しているようでした。「なんで光るん?」、「触ったら熱い?」、「蛍光ペンみたい!」（発想が反対なんだよ!）、「クリスマスツリーみたい。」と、口々に叫んだり、妙に押し黙って目を凝らしたりしています。蛍はひょいと手を伸ばせば、簡単に手のひらを合わせたかごに入れることができます。音も無くフワリと浮かびながら、いつのまにか頭や洋服にくっついていて、それをお互いに指さしながらアハハ、アハハと笑い合います。

蛍鑑賞の前に行った、夕暮れ時の三ヶ村泉も楽しいものでした。「水の見張り番」、オオカワトンボに会えましたし、魚たちも相変わらず子供達の足をつつきにやってきます。（砂の中から舞い上がる、小さなエサを食べに来るんですってね。）水のほとりにいると、どうしてこうも人間はやさしくなり、慰められるのでしょうか。子供達も下半身ずぶ濡れになり、冷たさで足をしびらせながらも、大満足を身体中にみなぎらせています。高校3年生の娘が心から「今日ね、来て良かった。」と、つぶやきました。毎日の、ストレスだらけの学校生活と、社会と、自分自身の人生に向かって漠たる不安に悩んでいるらしい彼女にとって、何かはじけたようでした。それは、自然の持つ、ある不思議な力によってであり、またその日集まった多くの素敵な人に出会ったことによるものであったようでした。（出会い、その1）中学校時代、ひそかにお人柄を尊敬していた恩師に、思いがけず再会し言葉を交わした事。（出会い、その2）大きなバイクの後ろに、生活道具一式をくくりくけ、山へ、川へと走りまわられる白形さんの、のびやかでシンプルな生き方を知ったこと。しかも、その生き方は個人的楽しみにとどまらず、こうした観察会ではてきばきとイニシアティブをとり、私達の自然への道案内人として、どのように自然とつき合っていくべきか導いてくださっている、そんな社会的に前向きに生きていらっしゃる姿に感銘をうけたこと。（出会い、その3）普通のおばさん達が一生懸命、水について、生物について、行政について生き生きと楽しく語り合っている姿に接したこと。

自然の神秘と、素敵な人との出会いは何にも替えがたい教育力を持っていることを痛感した一日でした。一方、先日、作家の落合恵子さんが「子供達にとって、おとなは最大の環境問題です。」と言われていたのを思い出します。私自身、どのような社会を次の世代の子供達に残したいのか、しっかりとイメージし、出来る事から努力してゆかねばと思っています。

お誘い頂き、本当にありがとうございました。

シグズ 「もっともらしい けど あやしい」のゴキウ
 ホントかしら? No.1.

なんでもかんでも“自然”“有機”“無農薬”。そこで賢い消費者はチェック!土つき、穴あき、大歓迎。ところが、ところが、おっと。もともと、元気な土に育った野菜は虫食ったりしないとか。土つき、穴あきだからとて、無農薬の証拠にはなりませんぞ、ご用心、ご用心。
 (Y)



お知らせ

- * 10月9日/午後1時 町民会館前 集合◇役場へ
- * 10月14日/国際交流センターでフェスティバル
- * 10月16日/午後1時半 学習会例会

編集後記

この「井戸端だより」はみんなで順番に編集しています。だれもが、できる範囲で出来ることを地道にしています。これがこの会の良いところだと自負しています。しばらくは、過ごし易い良い季節です。今度はみんなでどこかへでかけましょうかね。《K&Y》カットモ!

問い合わせ先; 暮らしの学習会
 /事務局; 64-6956 (林)

